

感染症情報 10月17日～23日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	856例(堺市 42例)
②RSウイルス感染症	579例(堺市 48例)
③おたふくかぜ	513例(堺市 28例)
④溶連菌感染症	317例(堺市 18例)
⑤手足口病	131例(堺市 7例)

が報告された。

感染症報告数は前週より17.9%増の2,726件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、溶連菌感染症、手足口病の順で先週、先々週と同じであった。2位のRSウイルス感染症は府下で前週比5%増、堺市で同数であった。当科周囲の流行は収まってきた感がある。おたふくかぜは府下では前週比44%増で過去10年間で最も多いとされた。堺市では18%減であった(34例→28例)。4位の溶連菌感染症は府下で37%増、堺市では前週9例から今回18例の倍になった。手足口病が府下では前週152例から今週131例で14%減、堺市では前週9例が今週7例となっている。

全国で過去最高レベルとされたマイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週19例から今週51例に大幅に増加している。特に堺市では前週2例であったのが、15例となっている。当科周囲でも流行が続いている。また、アデノウイルス感染症の一つ、流行性角結膜炎が前週比19%増の57例で、大阪市西部では警報レベルとなっている。

麻疹や風疹の報告はなかった。